

「きばっど」 南薩の社会教育

家庭の教育力の向上



青少年教育の充実



人権教育の充実



地域の教育力の向上



文化財の保存・活用



令和4年3月発行

南薩地区社会教育振興会



令和3年度 社会教育関係者・団体表彰



学年は受賞時

1 社会教育委員関係

【社会教育功労者表彰（文部科学大臣表彰）】

- ・馬場畑 末治（指宿市）

2 P T A関係

【令和2年度「楽しい子育て全国キャンペーン」三行詩】

【小学生の部 文部科学大臣表彰】

- ・下窪 剣心（南九州市立栗ヶ窪小学校1年）

【優良P T A文部科学大臣表彰】

- ・穎娃小学校P T A（南九州市）

【日本P T A全国協議会表彰】

- ・別府中学校P T A（枕崎市）

【県P T A連合会表彰】

- ・枕崎市P T A連絡協議会（枕崎市）

3 公民館関係

【全国公民館連合会永年勤続職員表彰】

- ・末吉 征徳（指宿市丹波校区公民館主事）
- ・川畑 律子（指宿市川尻校区公民館主事）

【県公民館連絡協議会公民館等職員表彰】

- ・濱田 由美子（指宿市徳光校区公民館主事）
- ・泉 恵（指宿市魚見校区公民館主事）
- ・森 道裕（南さつま市阿多地区公民館主事）
- ・永池 直文（南さつま市大坂地区公民館長）

4 社会教育振興会関係

【地区社会教育振興会表彰】

- ・積山 武光（枕崎市）
- ・開聞中学校区学校応援団協議会（指宿市）
- ・村田 敏雄（南さつま市）
- ・津貫中間豊祭太鼓踊保存会（南さつま市）

5 子ども会関係

【全国子ども会連合会表彰】

- ・下川床 泉（指宿市）

【九州地区子ども会育成連絡協議会表彰】

- ・青矢 順子（南九州市）

【県子ども会育成連絡協議会表彰】

- ・指宿市子ども会育成連絡協議会（指宿市）
- ・満永 真理（南九州市）
- ・川辺校区子ども会育成連絡協議会（南九州市）

【県優良少年少女団体及び地域高校生クラブ等表彰】

- ・大堀子ども会（枕崎市）
- ・武田上子ども会（南さつま市）

【県青少年育成県民会議表彰】

- ・馬場畑 末治（指宿市）
- ・ガールスカウト鹿児島県連盟第3団（指宿市）

【地区子ども会育成連絡協議会表彰】

- ・竈原子ども会（枕崎市）
- ・木の根子ども会（指宿市）
- ・金峰支部子ども会（南さつま市）
- ・松崎 瑞喜（南九州市）
- ・松原校区子ども会育成連絡協議会（南九州市）

6 読書活動関係

【子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）文部科学大臣表彰】

【子供の読書活動優秀団体】

- ・金峰おはなし会（南さつま市）

【ライブラリー・オブ・ザ・イヤー2021「大賞」】

- ・指宿市立図書館/本と人をつなぐ「そらまめの会」（指宿市）

【子どもの読書活動推進優良図書館等鹿児島県教育委員会表彰】

【子どもの読書活動推進優良図書館】

- ・山川図書館（指宿市）

【「毎月23日は子どもといっしょに読書の日」表彰】

【ポスター原画コンクール】

- ・優秀賞 橋口 ゆかり（南さつま市立加世田中学校1年）
- ・入選 高吉 真彩（南さつま市立阿多小学校5年）

【県図書館大会表彰】

【優良読書グループ表彰（県図書館協会・県読書推進運動協議会）】

- ・たんぼぼのわたげ（枕崎市）

7 少年の主張鹿児島県大会

- ・優良賞 福崎 三奈（指宿市立山川中学校3年）
- ・優良賞 小田原 亜沙（南さつま市立加世田中学校3年）

8 地域が育む「かごしまの教育」県民週間

【ポスター原画】

- ・優秀賞 松菌 尚也（南九州市立大丸小学校6年）
- ・特選 岩本 夏輝（指宿市立魚見小学校4年）
- ・特選 大富 花恋（南さつま市立内山田小学校5年）
- ・入選 福元 颯麻（指宿市立柳田小学校4年）
- ・入選 橋口 真桜（南さつま市立内山田小学校6年）

【標語】

- ・特選 木浦 優花（指宿市立南指宿中学校1年）
- ・入選 桑原 あさひ（枕崎市立立神小学校3年）

9 「家庭の日」絵画・ポスター・標語関係

【学校賞】

- ・優秀学校賞 枕崎市立桜山小学校

【絵画の部】

- ・優秀賞 松浦 寛敬（指宿市立柳田小学校2年）
- ・優秀賞 山崎 恵麻（枕崎市立立神小学校3年）
- ・優秀賞 桑畑 野ノ花（南さつま市立内山田小学校5年）
- ・優良賞 坂元 あおい（南九州市立高田小学校2年）
- ・優良賞 中尾 優香（南さつま市立笠沙小学校3年）
- ・優良賞 内菌 優心（鹿児島県立指宿養護学校3年）
- ・努力賞 西元 佐菜（指宿市立山川小学校1年）
- ・努力賞 湯田 昊（南九州市立宮脇小学校1年）
- ・努力賞 草原 望夢（南九州市立高田小学校2年）
- ・努力賞 柳元 貫汰（南さつま市立笠沙小学校3年）

【標語の部】

- ・最優秀賞 菊永 柚葉（南九州市立松山小学校1年）
- ・優秀賞 吉嶺 凜華（枕崎市立立神小学校4年）
- ・優良賞 上玉利 紗希（指宿市立丹波小学校5年）
- ・優良賞 野上 宗優（南九州市立松山小学校6年）
- ・努力賞 木下 陽路（南九州市立宮脇小学校2年）
- ・努力賞 下園 陽斗（枕崎市立桜山中学校2年）
- ・努力賞 塩屋 一心（南さつま市立大笠中学校3年）

家庭の教育力の向上

【地区PTA母親委員会】

令和3年7月13日（火）

枕崎市市民会館にて、地区PTA連絡協議会会長、地区母親委員8人、各市教委等15人が参加して協議が行われました。

まず、池畑 嘉也 会長から会長就任の御挨拶とともに、本年度の地区PTA活動の取組等についての話がありました。続いて、事務局から、本年度の地区PTA連絡協議会の基本方針や努力点、母親委員会の目的や運営等について説明がありました。

協議においては、10月に開催予定の「地区PTA役員及び会員等研修会」のコロナ禍における開催方法や講演会のテーマの検討、当日の役割等について話し合い、今年は「今後のPTAの在り方等」に関することをテーマに進めていくようにしました。

また、平成30年度から地区内の小学校1年生の保護者に配布している「親子手帳」の改訂に向けた協議も行われ、「あまり活用されていないのでは。」、「文字や色合いが見にくい。」など率直な意見とともに、「QRコードでも読み込めるように。」、「発達障害やLGBTの内容も掲載してほしい。」など多くの提案があり、これらを参考に改訂作業が進められることになりました。



〈池畑会長の挨拶〉



〈協議の様子〉



【地区PTA会員等研修会】

録画配信[令和3年11月1日（月）～ 令和3年12月末]

今年度は、新型コロナウイルス感染防止の観点から録画配信に変更し、関係者出席のもと南薩教育事務所にて収録を行い、令和3年11月1日から令和3年12月末まで配信されました。

録画配信の内容は、地区PTA連絡協議会の池畑 嘉也 会長の開会挨拶のあと、研修Ⅰとして、南薩少年自然の家の中村 智子 所長に「今後のPTA活動の在り方」との演題で講演をしていただきました。PTA本来の目的や意義を踏まえ、コロナ禍で中止となった行事など、適切に見直しを図り改善していくための視点を示唆していただきました。特に、PTA活動の大前提である「子どもたちのために」という視点で考えることの大切さや、学級PTAの在り方など、今後のPTAの在り方を考えるよい機会となりました。

研修Ⅱでは、枕崎市立桜山小学校 内菌 博之 校長より、「桜山の子供たちのために、連携・協働するPTA活動の推進 ～持続可能なPTA活動を目指して～」とのテーマで、事例発表をしていただきました。コロナ禍における桜山小学校のPTA活動の具体例は、これからのPTA活動の在り方や形づくりに大変参考になる内容であり、桜山地区において長年培われたPTA活動への意識の高さや協力体制には感嘆するものがありました。

また、録画配信についてのアンケートには、「コロナ禍におけるPTA活動の在り方や他校の事例が参考になった。」、「録画配信なので、時間に余裕をもって視聴できた。」などの感想が多くありました。



〈池畑会長の挨拶〉



〈中村所長の講演録画の様子〉



〈内菌校長の事例発表〉

青少年教育の充実

【北薩・南薩地区ジュニア・リーダー及び高校生クラブ等交流大会】

令和3年6月26日（土）と7月23日（金）～25日（土）の4日間、南薩少年自然の家及び南薩教育事務所で、南薩地区の中高校生21人が参加して、開催されました。

昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となっていましたが、今年度は、Web会議によるオンライン交流大会で実施することになり、南薩地区のジュニア・リーダーたちは、6月26日（土）から実行委員会を立ち上げ、仲間づくり活動や、オンライン交流の準備を進めていきました。

北薩地区のジュニア・リーダーと会ってスポーツ交流がしたかったという実行委員の願いや、コロナで会えないからこそ、気持ちでお互いを尊重し合いながらオンラインで交流したいという2つの思いを込めて、今回の大会テーマは、「Sportsmanship! 南薩・北薩の深める交流・深まる絆」としました。

活動1では、「イングリッシュフォトアドベンチャー」で、班の仲間と協力しながら解決していく活動を行いました。また、活動2では、吹上浜の砂を使った「サンドアート」を作り、できあがったものを北薩のジュニア・リーダーに交流の証として贈りました。活動3では、「室内レクリエーション」で、協調性を養いながら、南薩地区のジュニア・リーダーとの絆を深めることができました。



〈活動1〉



〈活動2〉



〈活動3〉



〈集合写真〉

7月25日（日）のオンライン交流大会では、阿久根市、出水市、さつま町のジュニア・リーダー22人が参加し、南薩地区のジュニア・リーダーの活動や、地域の特産物、市の情報などをクイズ形式で紹介しました。北薩からも各市のジュニア・リーダーの活動を聞くことができ、お互いよい刺激になりました。

南薩地区のジュニア・リーダーたちからは、「リモートでつながるという新たな取組で、どうなるのか心配だったけど、成功してよかったです。」「北薩の子たちと話や自己紹介ができて、北薩のよいところを知ることができました。

また機会があったら、リモートではなく、顔を直接あわせて話し合いたいです。」「他のクラブがやっていることで、もし取り入れられるものがあれば取り入れたいと思います。」などの感想が出され、大会の趣旨が十分生かされた交流会になりました。



〈オンライン交流大会 開会の挨拶〉



〈オンライン交流大会 活動発表〉

【地区子ども会安全教育研修会・創作活動大会及び子ども会指導者・育成研修会（書面開催）】

令和3年12月4日（土）に、南さつま市民会館大ホールで、地区内の子ども会員及び育成者・指導者等76人が参加して開催されました。本大会は、参加人数の制限や広い会場使用、健康チェック表の活用など新型コロナウイルス感染防止対策を徹底して実施されました。

まず、枕崎市の大堀子ども会、南さつま市の武田上子ども会の2団体に、県優良少年少女団体表彰の賞状伝達式が行われました。

次に、安全教育研修会では、南九州市子連ジュニア・リーダー指導者の満永 真理氏に講師をしていただき、「子ども会活動を安全・安心に実施するために」というテーマで、KYT（危険予知トレーニング）の研修を実施しました。KYT教材を見ながら、危険を見付け回避するにはどうすればいいかを考え、安全を確保する上で、小学生、中学生、高校生、それぞれの役割で対策を考える大切さを感じていたようです。

創作活動大会では、クリスマス用のサンタクロースのペーパークラフトを作成しました。はさみやカッターを上手に使い、親子ともに、安全を学び、楽しい創作活動になりました。

子ども会指導者・育成研修会（書面開催）については、金峰地区の子ども会の取組について紙上発表することで、今後の子ども会の活動の参考となりました。



〈安全教育研修会〉



〈創作活動大会〉



〈創作活動大会の作品〉

人権教育の充実

【地区社会教育・文化財・社会体育行政研修会】 令和3年5月7日（金）

南九州市知覧文化会館において、各市社会教育・文化財・社会体育の行政担当者等41人が参加して研修会が行われました。

今回は、「オフィスピュア」代表で、鹿児島県男女共同参画審議会会長の たもつ ゆかり 氏に『「誰一人取り残さない」地域力を高めるために～人権・男女共同参画と地域づくり～』という演題で講演をしていただきました。

講演では、「男女共同参画社会基本法」制定に至る社会的背景や、基本法制定から21年を経過した男女共同参画（ジェンダー平等）の国や本県の現状について解説され、男女共同参画の視点にたった地域づくりへの取組と今後の課題について示唆に富む講話を拝聴することができました。

参加者からは、「初めて聞く用語も多く、ジェンダー平等についてあらためて学び考える機会となった。」「社会教育行政の業務を行うなかで、人権・男女差別に理解を深め、男女共同参画の視点に立った地域づくりの重要性を感じた。」などの感想が多くありました。



〈たもつ ゆかり 氏の講演〉

地域の教育力の向上

【地区自治公民館経営研究会兼人権教育ブロック別指導者研修会】 書面開催

南九州市知覧文化会館にて、令和3年9月8日（金）に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い書面開催に変更し、各市公民館関係者及び社会教育関係者へ関係資料として自治公民館事例発表と県人権同和对策課の「じんけんハンドブック」を配付しました。

事例発表は、南さつま市「泊」自治公民館から、研究テーマ「自治公民館活動と伝統芸能を継承する地域づくり」と題した資料を提供していただきました。自治公民館組織の在り方や地域の伝承活動を重視した活動内容が詳細に示されており、世帯数減少や少子高齢化が進むなかで、「安心・安全の地域づくり」における自主防災組織の活用や、泊地区独特の伝統行事である「唐カラ船祭り」や「泊十五夜」などの継承推進の取組など、他の地区においても参考となる内容でした。来年度については、新型コロナウイルス感染状況を見ながら、オンライン等による開催方法も検討してまいります。



〈配付資料
事例発表と「じんけん」ハンドブック〉

【地区社会教育委員研修会】 令和3年10月8日（金）

南九州市知覧文化会館にて、各市社会教育委員、生涯学習課長、社会教育課長等45人が参加し、「南薩の教育を生かした学校と地域の連携・協働の在り方 ～地域と学校が協働する仕組みづくり・つながりづくりの促進～」を令和2、3年度のテーマとして研修会が行われました。新型コロナウイルス感染予防として、開会・閉会行事や講話など全体会は大ホールにて、研究協議のグループ討議は複数の会議室に分散するなど感染対策を講じながらの開催となりました。

本年度は、鹿児島大学法文学部准教授の金子満氏を講師に招き、「地域学校協働活動の充実に向けて」と題して講話が行われました。学校と地域が互いに補いつながることや、行事の目的と手段を見直し「協働」から「響同」のつながりを大切にしていくことなど、社会教育を推進していくうえで多くの示唆に富む講話を拝聴することができました。

研究協議では「地域素材や人材の活用をとおした学校・地域との連携」をテーマとして、グループ討議が行われ、学校行事で伝統芸能を継続していくための工夫や、多くの方が子どもたちを見守るような様々な活動紹介など多くの意見が出され、子どもたち一人一人を学校・地域が連携して大切に育てていくために、地域学校協働活動を推進していく意義や重要性を参加者で共有できる機会となりました。



〈吉松会長挨拶〉



〈坂中所長挨拶〉



〈金子満氏の講話〉



〈グループ協議〉

【新登録・指定文化財の紹介】

『^{いわもとけしゅうたくしゅおく}岩元家住宅主屋』国登録有形文化財（建造物） 令和3年2月26日登録

南さつま市坊津町の秋目麓集落にあり，明治前期に建造された，もと網元の木造平屋一部2階建の住宅で，明治から昭和中期頃までの網元の生活の様子がわかり，秋目麓の歴史的景観にも寄与している貴重な文化財です。



〈岩元家住宅主屋〉

『^{かどのうらでんらいえまく}門之浦伝来絵幕』県指定有形文化財（絵画） 令和3年4月23日指定

全長9.1メートル，幅37センチメートルで，15の場面に分かれた物語が描かれている。15世紀後半から17世紀初頭の戦国時代に描かれたもので，絵幕は祭祀の際に使われており，「素朴絵」の地域への伝わりを示す貴重な文化財として，南九州市ミュージアム知覧に収蔵されています。



〈門之浦伝来絵幕〉

【地区文化財保護審議会委員等研修会】 書面開催

南薩地区各市の文化財保護審議会委員等が一堂に会して，文化財の現状や当面する諸問題について研究・協議を行い，講話や現地研修を通して文化財等の保護・活用の充実を図ることを趣旨として，各市輪番で開催しています。本年度は指宿市で開催予定でしたが，新型コロナウイルス感染防止の観点から書面開催に変更となり，県文化財課指定文化財係及び埋蔵文化財係の講話資料等を関係者に配付しました。

【地区「指定文化財」巡回視察】 令和3年11月17日(水)

管内の市教育委員会が管理している指定文化財の保存・活用の実態を把握し，個々の課題について共同研究を行うことにより，文化財の保存・活用に資することを趣旨として開催されています。

本年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から，開催地の南さつま市文化財行政担当者と南薩教育事務所に参加者を限定し，加世田麓伝統的建造物群保存地区（国選定重要伝統的建造物群保存地区），島津忠良[日新公]の墓（市指定史跡），岩元家住宅主屋（国登録有形文化財），坊津（国指定名勝），一乗院跡（県指定史跡）について，南さつま市教委生涯学習課文化係の 宮田史裕 主査と 橋口亘 主査の説明を受けながら視察しました。

加世田麓は，山城周辺に形成された武家地を起源とする麓として，武家住宅の腕木門や石垣，益山用水に架かる石橋などの歴史的な集落や町並みが，伝統的建造物群保存地区の制度により保存・整備されていること，岩元家住宅主屋は，本年2月に国登録有形文化財（建造物）に登録され，その敷地に隣接する「007の映画ロケ地跡」など，坊津町秋目麓のランドマークとしての期待，また，一乗院跡では，近年実施された石垣の修復工事の様子など，指定文化財の保存・活用の実態把握や個々の課題について学ぶ機会となりました。



〈加世田麓伝統的建造物群保存地区〉



〈島津忠良の墓〉



〈岩元家住宅主屋〉



〈一乗院跡〉



枕崎市の「メディアコントロール」の調査結果から

我々の身の回りに溢れるメディア機器は、我々の生活の中では欠かせないものです。しかし、メディアの使用頻度を自ら上手にコントロールしていくということは、子供・大人を問わず身体的・精神的健康を保つという面からとても重要なことです。特に、小学生・中学生期においては、基本的な生活習慣を確立し、「家庭学習の時間をしっかりと確保する」という面からも、メディアとの上手な関わり方（メディアコントロール）ができることが求められています。

令和2年度7月と令和3年度7月の調査結果の比較

メディアコントロールへの取組		小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年	中学校全学年
		割合	割合	割合	割合
① 自分から進んで守れた	R2	68%	63%	58%	35%
	R3	◎70%↑	△59%↓	△51%↓	◎42%↑
② 親に言われて守れた	R2	29%	30%	31%	35%
	R3	◎27%↓	△34%↑	△36%↑	35%
③ 全く守れなかった	R2	3%	7%	11%	30%
	R3	3%	7%	△13%↑	◎23%↓

今年度の調査結果を見てみると、昨年度の7月に調査した結果と同様に、「自分から進んで守れた」という割合が、学年が上がるにつれてどんどん下がっていることが分かります。昨年度の調査結果との大きな違いは、小学校低学年と中学校全学年の割合がそれぞれ「68%から70%」・「35%から42%」と増え、逆に小学校中学年と小学校高学年の割合がそれぞれ「63%から59%」・「58%から51%」と減っているということです。PTAや家庭教育学級等での保護者への粘り強い呼びかけによって少しずつ状況が改善している学年もありますが、一方では状況の改善が見られない学年もあるので、今後も児童・生徒や保護者へ粘り強く「メディアコントロール」に向けた意識啓発を続けていくことが求められています。

また、「保護者の自由記述の意見」では、小学校・中学校を問わず、「いつまでもスマホの動画を視聴している。」「ゲームをやり始めたら、自分からなかなかやめることができない。」などの意見があり、保護者の困っている様子が意見記述からも多く確認することができました。また、一方では家庭内のルールをしっかりと確立させ、メディアとの上手な関わり方ができている状況について書かれている意見もありました。

このような現状からも、この「メディアコントロール」については、今後も枕崎市の最重点課題として取り組んでいきたいと考えているところです。

枕崎市中学校弁論大会について

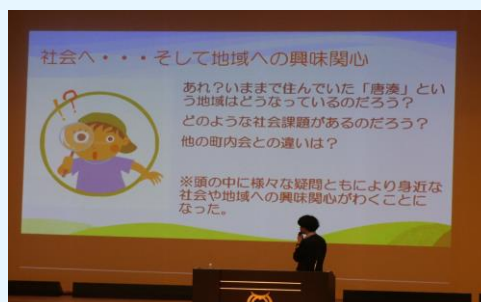
7月16日（金）に、中学校弁論大会が2年ぶりに開催されました。

市内4校の各中学校から選ばれた2人ずつ計8人の弁論者は、一生懸命練習をしてこの日の大会に臨み、当日は自分の思いを多くの聴衆に向けて堂々と発表することができました。また、弁論の発表者はもちろんのこと、大会の運営を行う枕崎市中学校生徒連盟（中生連）の係の生徒、弁論の聴衆である全ての生徒・来賓・保護者が一体となった素晴らしい弁論大会にすることができました。

また、この日は弁論大会の審査の時間を活用し、高校生の時に鹿児島市唐湊山の手町内会長に就任した金子陽飛（かねこはるひ）さんの講演会も行われ、これまで取り組んできた町内会活動で感じたことや今現在自分が強く思っていることを年の近い中学生に向けて熱く語ってもらう機会も設けることができました。



〈弁論大会の様子〉



〈金子陽飛さんの講演の様子〉



指宿市の取組

「令和3年ミニ企画展『人類VS病～病との永きに渡る闘いの歴史～』」

指宿市考古博物館では、令和3年度のミニ企画展(以下:本展)として「人類VS病～病との永きに渡る闘いの歴史～」を令和3年9月18日(土)から11月7日(日)まで開催しました。本展では、国内で流行した感染症に着目し、人々はどのような対応をとってきたのかを展示・解説しました。

導入として古代人の病と祈りについて、南さつま市に所在する上加世田遺跡の縄文時代の土偶・岩偶(南さつま市教育委員会蔵)を紹介しました。

奈良・平安時代以降に国内で流行した感染症として、天然痘、麻疹、結核、コレラ、スペイン風邪の5つを取り上げ、その中でも、人類最大の感染症被害といわれるスペイン風邪の大流行(1918～1920)を本展の目玉としました。スペイン風邪の被害は、国内でも半数近くの人が罹患、全世界でも第一次世界大戦の犠牲者(約1000万人)を大きく上回る約5000万人の人々が亡くなっています。

スペイン風邪が国内で大流行した際、内務省衛生局(現在の厚生労働省)は、「流行性感冒予防之心得(大正8年10月)」を各自治体に通達し、「外出する際はマスク着用・人込みには近寄るな・外出時、帰宅時にはうがいをせよ」といった現在とほとんど変わらない対策が講じられていたのです。

戦後、公衆衛生や医療が発展し、人類が恐れてきた感染症は少しずつ減少しています。特に天然痘は、種痘の普及により、人類が撲滅できた唯一の感染症となっています。

現在の新型コロナウイルス感染症も、ワクチン接種の普及により、重症者数が減少しています。我々の祖先が数々の感染症との闘いを乗り越えてきたように、私たちが正しい感染症対策を行えば、これを乗り越えられるという認識を多くの市民の方々にもっていただけたなら幸いです。



〈企画展ポスター〉



〈学芸員による解説〉

できることを模索して～図書館フェスティバル開催～

図書館フェスティバルは、読書活動を通じた心豊かな人づくりを行うため、学校・地域・市立図書館等が連携しながら、市民ニーズに対応した読書環境の充実を図ることを目的に毎年開催しているイベントです。令和2年度が新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となったため、今年度は何とか開催することができないか検討し、従来とは違った形で開催することになりました。

【図書館の取組】

「図書館フェスティバル月間」として、10月にイベントを集中して開催しました。子どもを対象とした図書館講座や、IBUDOKU～指宿読書会～、大人のための映画会など、感染症対策のため人数を制限した中での開催となりましたが、久々のイベント開催に、参加者からも喜びの声が届きました。

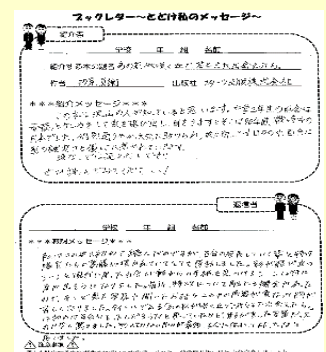
【社会教育課の取組】

ビブリオバトルの代替企画として、紙面上で本を紹介する「ブックレター～とどけ私のメッセージ～」を実施しました。お気に入りの本を紹介し、他校の児童生徒から返事をもらうという内容でした。中には校種を越えた交流も行い、参加した児童生徒等からは、「お気に入りの本が増えた」「本を紹介してくれた相手に実際会って本について話をしてみたい」との声も上りました。

未だに新型コロナウイルス感染症の影響で行動が制限される状況が続いていますが、今後もできることを模索しながら、様々な形で読書推進を図っていきたいと思います。



〈ユニークな図書館講座〉



〈実際の紹介文〉



美しいふるさとの海を未来へ 吹上浜クリーン作戦

南さつま市では、毎年「青少年ふるさと美化活動（吹上浜クリーン作戦）」を実施しています。

今年も、ハマボウの群生地やハクセンシオマネキの生息する貴重な河口域、ウミガメが産卵する美しいふるさとの海や砂浜を未来へと継承するために、7月18日（日）に実施しました。市内の小中学生や保護者、地域住民など約450人が参加し、朝早くから汗を流しました。漂着ゴミなど約580キログラムを回収しました。

参加者からは、「親子で環境問題を考えるきっかけになりました。」「10年後もこの活動が続き、ウミガメが産卵するふるさとであってほしいです。」「ハマボウやハクセンシオマネキを知り勉強になりました。」「みんなが使えるようにきれいになって良かったです。」などの声をいただきました。

美しいふるさとの海を未来へつなぐために、また、世代間交流やふるさとの良さの再発見のために、今後も「吹上浜クリーン作戦」を実施いたします。



〈砂浜の清掃〉



〈河口域の清掃〉

響け！ 歌声！ 南さつま市少年少女合唱団

南さつま市少年少女合唱団は、郷土を担う子供たちに幼いうちから芸術文化活動に親しむ機会を与え音楽を愛する心を培い、心豊かな人間を育成するとともに、音楽水準の向上と芸術文化の振興を図ることを目的に、平成27年にスタートしました。現在、7年目を迎え、小学生14人、中学生7人の計21人で、東幸恵先生、田代章子先生、若松いずみ先生の指導の下、毎週土曜日を中心に練習を重ねています。

例年なら、市内各地で行われるイベントや県合唱祭等に参加し、歌声を響かせ、南さつま市を合唱で元気にしているところですが、新型コロナウイルス感染症の影響により、なかなか活動できていない現状です。

このような状況の中、団員は練習を重ね、加世田文化祭に映像出演したり、鹿児島ヴォーカル・アンサンブル・コンテストに挑戦したりしました。同コンテストでは、ブルースカイチームが「空のように青い心で」で金賞を、スマイルチームが「夢をかなえてドラえもん」で銀賞をそれぞれ受賞しました。

新型コロナウイルス感染症が収束に向かい、私たちの歌声が南さつま市に響き渡り、南さつま市が歌声とともに笑顔であふれる日を願って、練習を頑張っ参ります。



〈密を避けた練習〉



〈ふれあいコンサート〉



第40回南九州市高校生クラブふるさと大会

令和3年8月7日（土）、知覧平和公園周辺にて、高校生ふるさと大会が行われました。

本大会は、市内在住の高校生（知覧中出身）が中心となり毎年開催しており、企画・運営とも高校生役員が主体となり行っています。今年は66人の高校生クラブ会員が参加しました。

午前中は、灯籠清掃や募金活動、独居高齢者へのハガキ書き、マスクケースの寄贈といったボランティア活動を行いました。マスクケースについては、事前に高校生役員が手作りしたマスクケース約180個を市立図書館へ寄贈しました。会長の福永真子さんは「今、自分たちができる活動を行い、少しでも地域の方たちの役に立てれば嬉しい」と話していました。

午後からは、会員同士の親睦を図ることを目的に、グラウンドゴルフ大会を行いました。校区及び男女混合でチームを編制し、同じ地域に住む高校生同士の交流を深めることができました。



〈手作りマスクケースを寄贈する役員〉



〈全体写真〉



〈グラウンドゴルフ大会の様子〉

南九州市ジュニア・リーダークラブ清掃活動

令和3年10月17日（日）、南九州市ジュニア・リーダーえい「からいも会」が南九州市の観光地となっている瀬平自然公園の清掃活動を実施しました。

同クラブは、新型コロナウイルス感染症の影響で活動が少なくなった中、新しい取組として、「地域貢献」、「周囲をきれいに」という目標を立て、2か月に1回定期的に地域の清掃活動を行ってきました。清掃活動を始めた当初は、颯娃文化会館から西颯娃駅にかけてのゴミ拾いを行っていましたが、今回は初めていつもの活動場所から離れての活動にチャレンジしました。

活動後会員からは、「普段あまり立ち寄らない場所だったが、来てみてとても良い場所だと思った。」や「観光地にしては、ゴミが多いと思った。」、「拾ったゴミの量を見て、達成感が得られた。」などの声が聞かれました。

この清掃活動は、ジュニア・リーダーの皆さんにとって、改めて自分たちの住む地域には普段は気付かなかった風光明媚な場所が多くあること、そのすばらしい場所に多くのゴミが落ちていることを認識する機会となりました。今後も様々な活動に取り組み、地域の自然環境の素晴らしさに気付き、課題等に直接向き合い、楽しみながら学んでほしいと願っています。



〈清掃活動後の様子〉

枕崎市

みちのしょうのうせいぞうじよ
道野樟脳製造所

R 3.10.5 市指定

樟脳^{しょうのう}を製造する製造用具（設備）は、カマド（竈）・釜・冷却水槽・通い筒から構成される。

樟脳製造には、多くの水が必要であったため、道野樟脳製造施設^{みちのしょうのうせいぞうしせつ}では道路（県道 269 号線）北側には貯水池（広さ約 500 平方メートル）を設置し、そこにいったん花渡川^{はなわがわ}上流の水を引いて溜め、そこから道路の下を通して樟脳製造施設へ流す施設（暗渠^{あんきよ}）が作られた。この道路下の暗渠（水路）は、石で作っており、この暗渠（水路）に水を通して水車を回し、暗渠は施設内の竈近くを通して数個あるタンクに水が入るようになっていた。

道野樟脳製造施設には、樟脳製造に必要な竈・釜^{こしき}・甑・冷却水槽・水車設置場・水路などが現在でも残っており、枕崎の近代化遺産として貴重なものである。（所在地：枕崎市桜山上町 178 番地）



〈「道野樟脳製造所遺構」（竈・釜・甑・水車設置場・水路）の様子〉

指宿市

弘化四年揖宿神社造替関係資料 3 点

R2.4.28 市指定

いぶすきじんじや こう かよんねんめいむなふだ 揖宿神社弘化四年銘棟札
てきこくごうぶく へんがく 「敵国降伏」扁額
きしゃぶじん でん なすのよいち へんがく 「騎射武人（伝 那須与一）」扁額

揖宿神社は、江戸時代の弘化四（1847）年に 10 代藩主島津斉興^{しまづなりおき}によって社殿が造り替えられています。3 点の市指定有形文化財は、揖宿神社の造り替えの目的と当時の鹿児島^{さつご}の危機的な状況を今に伝えています。

「揖宿神社弘化四年銘棟札」は、神社の造り替え事業を藩主島津斉興が行ったことが記されています。

「敵国降伏」扁額は、島津斉興が社殿の造り替えの年に奉納したものです。斉興は藩主に就任以降、度重なる異国船来航に苦しめられました。彼は、外国勢力を排斥する目的で呪術^{まじない}を行っていましたが、この扁額はその目的を達成する 1 つの手段として揖宿神社の社殿の造り替えが行われたことを示しています。

揖宿神社宮司による「騎射武人（伝 那須与一）」扁額の奉納は、「敵国降伏」扁額と同時期に行われました。裏書きには、斉興の武運長久^{ぶうんちようきゆう}とともに「敵国降伏」が記されており、揖宿神社の造り替えが国家鎮護^{こくわちんご}の意味を込めたものであったことを示しています。



〈揖宿神社弘化四年銘棟札〉



〈「敵国降伏」扁額〉



〈「騎射武人（伝 那須与一）」扁額〉

南さつま市

きょうでん た かみせきざう 京田の田の神石像

R 3.3.22 市指定

南さつま市金峰町大野の京田集落に所在する「京田の田の神石像」(二体)は、像の手元に麻の葉が表現されている非常に珍しい田の神石像です。

溶結凝灰岩の石材を用いて造られた僧形の田の神石像二体のうち一体が載っている台座には、江戸時代の中期、今から290年ほど前の享保16(1731)年に、「五穀成就」のため造立されたことを示す紀年銘が刻まれています。

衣類だけでなく、漁網等の材料としても用いられていた麻は、漁業においても重要な作物であったとみられ、石像の手元にみられる麻の葉の表現は、かつて漁村としても知られたこの地区における往時の麻生産の歴史を物語るものと考えられています。

【主要参考文献】

小野重朗 1978年「阿多地方の民俗と地域性」『隼人文化』第四号
隼人文化研究会／小野重朗 1981年『民俗神の系譜—南九州を中心に—』法政大学出版局



〈京田の田の神石像(二体)〉



〈石像の手元にみられる麻の葉の表現〉

南九州市

かどこれうらでんらいえまく 門之浦伝来絵幕

R3.4.23 県指定

門之浦伝来絵幕は、平成18年に南九州市知覧町門之浦の民家で発見されました。全長約9.1メートル、幅約37センチメートルで、15の場面に分けられた物語が描かれており、描かれている内容は「義経記」や「曾我物語」を素材にしていると考えられます。描写も室町時代に多くの作例が確認されている「素朴絵」と呼ばれる描写に類似しており、流鏝馬や犬追物といった中世の武士の様子や地引き網漁なども描かれています。

本史料は、放射性炭素年代測定で、15世紀後半から17世紀初頭に描かれたものであると判明しており、牛若丸と弁慶などを描いたものとしては最古の時期であるとの指摘もあります。また、「絵幕」とは神事・祭祀の際に使用されるもので、南九州市穎娃町や南さつま市でも祭祀で使われた絵幕が確認されています。内容も類似した点があり、直接の転写関係はありませんが、これらの他にも複数の異本が派生していた可能性があります。

当時の文化や文化が地方に伝わった経緯を研究するための歴史資料として価値が高いこと、近年評価が高まっている室町時代の素朴絵と言われる類の絵画であること、神事・祭祀で使用された民俗資料としても貴重な文化財であることから、平成26年に南九州市指定文化財に、令和3年に鹿児島県指定文化財となりました。



〈門之浦伝来絵幕 牛若丸と弁慶〉



〈門之浦伝来絵幕 犬追物〉